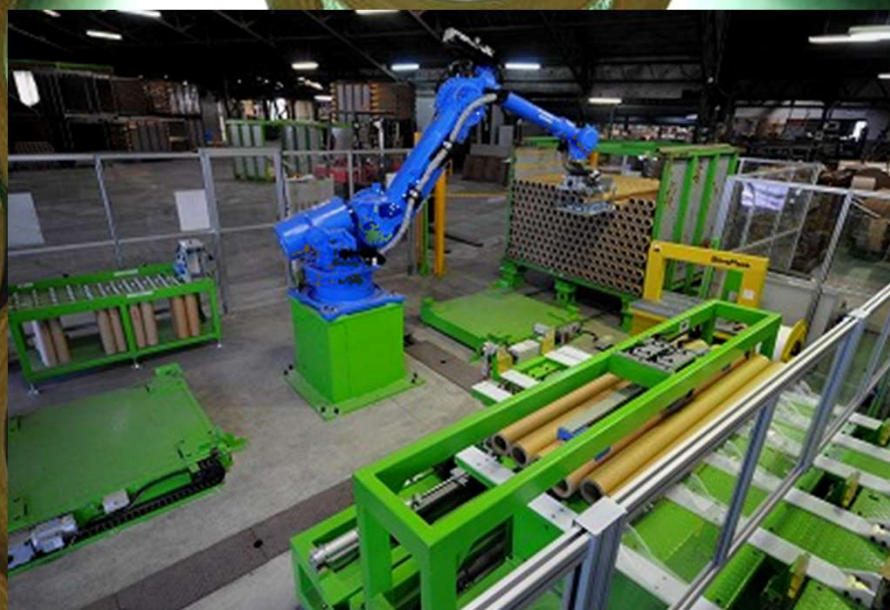


# 2023年度 環境経営レポート



佐賀板紙株式会社

Saga Paperboard Co.,Ltd

<http://www.sagaita.co.jp/>

活動期間 2023年4月～2024年3月

2024年7月18日

## も く じ

	ページ
1.ご挨拶 2.組織の概要	2
2.組織の概要	3
3.環境経営方針	4
4.環境経営目標	5
5.主要な環境経営活動計画	6
6.環境経営目標の達成状況と評価	7
7.環境経営活動計画の取り組み結果とその評価	8～9
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反訴訟等の有無	9
9.代表者による全体の評価と見直し・指示	10

## 1.ご挨拶

当社の歴史は、大正5年（1916年）現在地に肥前板紙株式会社が設立されたことに始まります。

以来、幾多の社会環境や世界経済の変化を乗り越え、また多様化するお客さまのニーズにお応えする製品を開発し、資源の乏しい我が国においてリサイクル可能な紙製品を社会に提供して参りました。

佐賀板紙は紙加工業界のパイオニアとして長年培ってきた貼合技術をもとに王子グループ内での一体事業として紙の持つ可能性を貼合板紙、紙管、紙アングルの分野で追求し続けてきました。我々は、紙加工を通して紙の特性を社会に役立たせることが佐賀板紙の使命と考えております。

当社は2013年6月、持続可能な循環型社会の実現に積極的かつ継続的に取り組むためにエコアクション21を導入致しました。

佐賀板紙株式会社

代表取締役社長 竹田 昌史

## 2.組織の概要

1.事業者名	佐賀板紙株式会社
代表者氏名	代表取締役社長 竹田 昌史
2.所在地	本社・工場（牛津事業所） 〒849-0302 佐賀県小城市牛津町柿樋瀬1140番地 久保田事業所 〒849-0204 佐賀県佐賀市久保田町1番地
3.環境管理責任者 担当者氏名 連絡先	製造副部長 小林 均 製造課長 釘本 享 TEL：0952-66-1231 FAX：0952-66-1475 E-mail：kugimoto03280912@oji-gr.com <a href="http://www.sagaita.co.jp">http://www.sagaita.co.jp</a>
4.事業の概要	製紙用紙管、一般紙管、紙アングル、紙紐、製本用芯材の製造販売
5.事業の規模	事業年度：4月～翌年3月

(単位)	2021年度	2022年度	2023年度
売上高 (百万円)	1,378	1,490	1,355
従業員 (人)	27	28	31
敷地面積 (㎡)	44,061	44,061	44,061

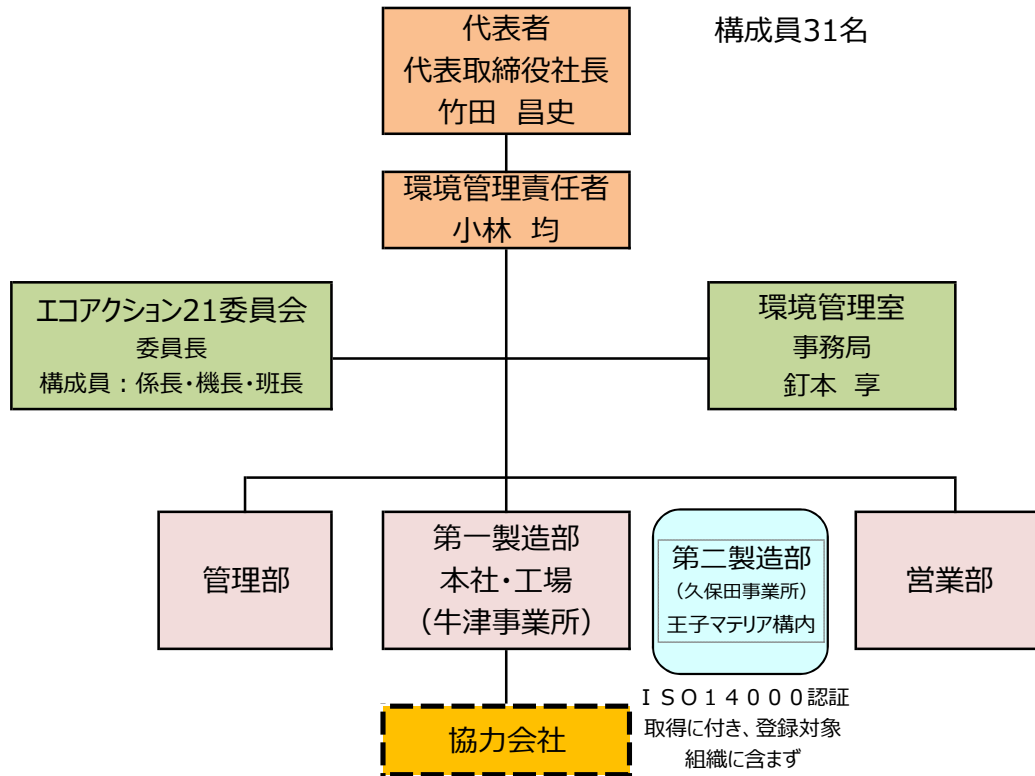
## 2.組織の概要

### 6. 認証登録の範囲

- 1) 事業内容
- 2) 対象事業所
- 3) 活動

製紙用紙管、一般紙管、紙アングル、紙紐、製本用芯材の製造販売  
本社・工場（牛津事業所）  
久保田事業所（ISO14001認証取得のためEA21対象外）  
サイト認証 全活動

### 7. 実施体制



\* 2024年3月末現在

### 3. 環境経営方針

佐賀板紙株式会社は、リサイクル可能な紙加工製品を社会に提供することで、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

1、製品の開発・生産および流通の各段階において、常に環境への影響を考え、環境負荷の少ない紙加工製品を社会に提供します。

2、企業活動に関わる法規制を常に把握し遵守します。

3、次の事項を省資源・省エネルギーの重点的なテーマとして、環境保全活動を推進します。

- (1) エネルギー使用量を抑え、二酸化炭素の排出量を削減
- (2) 廃棄物排出量削減
- (3) 水使用量（総排水量）削減
- (4) 原紙歩留まりの向上
- (5) 化学物質は適正に使用
- (6) グリーン購入の促進
- (7) 地域貢献活動の推進

4、環境教育・訓練の実施により、従業員はもとより関連会社にも周知徹底し、全員参加の環境保全活動を推進します。

5、環境活動レポートを作成し、環境取り組みの状況を公表します。

2017年6月28日

佐賀板紙株式会社

代表取締役社長 竹田 昌史

## 4. 環境経営目標

弊社における2020年度の環境負荷実績を把握し、2020年度を基準年として、2021年度から2023年度の目標を次のとおり定め活動を開始した。

原紙歩留りは1.0%向上、他は0.3%削減を目標とした。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	2020年 基準（実績）	2021年 目標	2022年 目標	2023年 目標	
温室効果ガス 排出量 原単位	温室効果ガス排出量原単位	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	194,876	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO <sub>2</sub> /T	29.840	29.810	29.780	29.750
	牛津事業所使用電力	電力	kWh	476,964	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		電力使用原単位削減	kWh/T	73.033	72.960	72.887	72.814
	構内運搬燃料	軽油	L	7,020	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		軽油使用原単位削減	L/T	1.075	1.074	1.073	1.072
	冬季原紙加温用ボイラー	LPG	kg	3,200	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		LPG使用原単位削減	kg/T	0.490	0.489	0.489	0.489
	社有車	ガソリン	L	576	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%
		ガソリン使用原単位削減	L/T	0.088	0.088	0.088	0.088
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	26.3	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	
	廃棄物使用原単位削減	t/T	0.004021	0.004017	0.004013	0.004009	
水使用量原単位	水	m <sup>3</sup>	1,152	▲0.1%	▲0.2%	▲0.3%	
	水使用原単位削減	m <sup>3</sup> /T	0.176	0.176	0.176	0.176	
原紙使用歩留まり	原紙	t	6,017	+0.5%	+0.75%	+1.0%	
製品生産高/原紙使用量	原紙歩留まり	%	85.15	85.57	85.79	86.00	
古紙配合紙100%使用継続				遵守			
使用化学物質の把握と適正使用				SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、 リスクマネージメント完全実施			
グリーン購入の推進		品目数		4品目	4品目	4品目	
地域貢献活動の推進		回数		4回/年	4回/年	4回/年	

\* 使用電力の二酸化炭素排出量は排出係数0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用して求めた。

\* 原単位は工程が一次、二次工程等があり全てで1kg-CO<sub>2</sub>を使用するので対延べ生産高、歩留りは製品生産高で求めた。

## 5. 2023年度における主な環境経営活動計画

原単位管理実施項目	統括 責任者	担当部署	活動項目
<b>1.二酸化炭素排出量原単位を2020年度比0.3%削減</b>  電気使用量削減 原単位を2020年度比0.3%削減  リフト軽油使用量削減 原単位を2020年度比0.3%削減  ボイラーLPG使用量削減 原単位を2020年度比0.3%削減  社有車がリン使用量削減 原単位を2020年度比0.3%削減	環境 管理 室長	営業 管理 製造 営業 製造  営業・製造  製造  営業 営業	1 空調の適温化（冷房28度程度、暖房20度程度）を徹底する 2 パソコンの省エネ設定を徹底する 3 エアコンのフィルター掃除回数を増やす 4 不要な照明の消灯 5 生産設備（コンプレッサ）の効率化  1 エンジン運転の実施 2 素材、製品の再移動を少なくする  1 ボイラー運転時間の標準化  1 エンジン運転の実施 2 社有車（ハイブリッド）の有効利用
<b>2.廃棄物排出量原単位を2020年度比0.3%削減</b>  廃棄物排出量削減	環境 管理 室長	全社 製造 製造	1 分別強化でリサイクル（古紙）推進 2 素材運搬時のラッピングフィルムの減量 3 糊付剥皮膜の発生抑制
<b>3.水使用原単位を2020年度比0.3%削減</b>  水使用量削減	環境 管理 室長	全社 製造	1 節水の周知徹底 2 漏水の定期点検
<b>4.原紙使用歩留まりを2020年度比1.0%向上</b>  原紙歩留まりを向上させる	環境 管理 室長	製造 製造 製造	1 素材寸法を適正化する 2 段取り回数を減らす（リフト品の素材在庫を増やす） 3 指定本数以上を生産しない（1本たりとも）
<b>5.古紙配合紙100%使用継続</b>	環境 管理 室長	管理	新規原紙の購入に当たっては、証明書入手する
<b>6.使用化学物質の把握と適正使用</b>	環境 管理 室長	管理・製造	1 SDS、新規使用原材料安全シート取得、リスクマネジメント実施
<b>7.グリーン購入の推進</b>	部 長	管理	1 グリーン相当事務用品の調査購入
<b>8.地域貢献活動の推進</b>	室 長	全社	1 敷地周辺道路のごみ拾い実施

## 6. 環境経営目標の達成状況と評価

エコアクション21の運用を行った、2023年4月から2024年3月までの1年間の目標に対する実績は次の通りであった。

環境目標項目	原単位管理 実施項目	区分	単位	2020年度 (基準年度)	2023年度		目標達成率	評価	
				実績 上段：使用量実績 下段：原単位	原単位目標	実績 上段：使用量実績 下段：原単位			
温室効果ガス 排出量削減 項目	温室効果ガス排出量 原単位0.3%削減	CO2	排出量	kg-CO <sub>2</sub>	194,876	▲0.3%	182,256	89	△
			原単位	kg-CO <sub>2</sub> /T	29.840	29.750	32.931		
		電力	使用量	kWh	476,964	▲0.3%	448,805	89	△
			原単位	kWh/T	73.033	72.814	81.094		
		軽油	使用量	L	7,020	▲0.3%	5,440	108	○
			原単位	L/T	1.075	1.072	0.983		
		LPG	使用量	L	3,200	▲0.3%	3,800	59	×
			原単位	L/T	0.490	0.489	0.687		
		ガソリン	使用量	L	576	▲0.3%	360	126	◎
			原単位	L/T	0.088	0.088	0.065		
	産業廃棄物	使用量	t	26.3	▲0.3%	32.92	52	×	
		原単位	L/T	0.0040	0.0040	0.0059			
	水	使用量	m <sup>3</sup>	1,152	▲0.3%	997	98	○	
		原単位	m <sup>3</sup> /T	0.176	0.176	0.180			
	原紙	使用量	t	6,017	0.0100	5,064	98	○	
	製品生産高/原紙	原紙歩留り	%	85.15	86.00	84.50			
	製品生産高 延べ生産高 (含む仕掛品)		t	5,123		4,279			
			t	6,531		5,534			
古紙配合紙100%使用継続			新規原紙の購入に当たっては、証明書入手する					新規購入原紙なし。	
使用化学物質の把握と適正使用			SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、リスクマネジメント完全実施					○	
環境法令等の遵守			環境カレンダーに基づき、自主測定・各種届出実施					○	
グリーン購入の推進		品目数	4品目	再生テッシュペーパー、事務用封筒、プリント4+スミーズ1、蛍光オプテックスケア購入。					
地域貢献活動の推進		回数	4回/年	5月、9月、11月、3月計4回実施した。総勢48名。					

\* 使用電力の二酸化炭素排出量は排出係数0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用して求めた。

\* 原単位は工程が一次、二次工程等があり全てで1社1ヶ所を使用するので対延べ生産高、歩留りは製品生産高で求めた。

評価	よく出来た	◎	120%以上
	目標達成	○	98%以上
	ほぼ達成	△	89%~98%未満
	目標未達成	×	88%未満

構内運搬燃料についてはリーチリフトによる燃料費削減が大きな効果となった。

社用車燃料については近距離移動は電気自動車(リーフ)を使用したことで大きく目標クリアすることが出来た。

二酸化炭素排出量、電力使用量に関しては生産量の減少により排出量・使用量は減少したものの、原単位では目標を達成することが出来なかった。



## 7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価(1)

### 7. 1 二酸化炭素排出量の削減

目標原単位に対して目標達成率は89%であった。

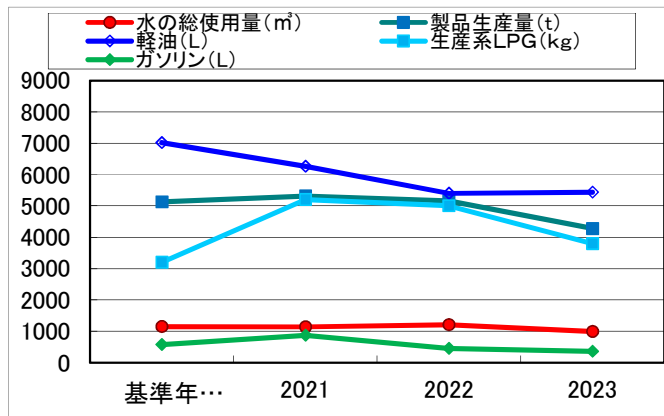
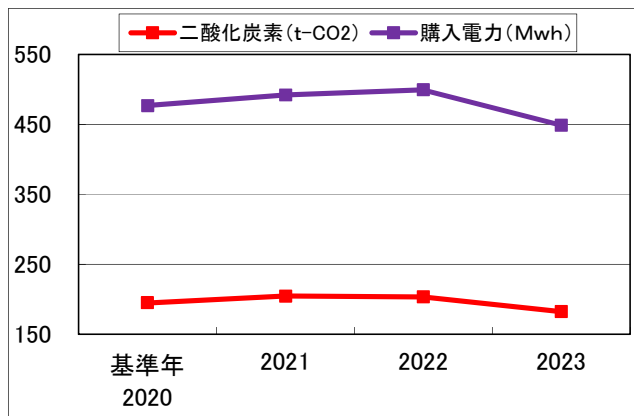
電力使用量は乾燥工程が必要な受注が多く、乾燥機の稼働時間が増加となったが、不要な電気設備のこまめな消灯等で電力使用量は削減することが出来たが目標をクリア出来なかった。

構内運搬燃料については素材や製品置場の集約や横持ち運搬を削減したこと、適切な構内運航、アングル職場で使用しているリーチリフトによる燃料削減効果が非常に大きく目標達成となった。

冬季原紙加温(ボイラー燃料)については加温が必要なアングルマシンの運転が多かったことでボイラー稼働が多く目標未達となった。

社用車燃料に関しては営業活動で社用車を使用することが少なかったことや近隣移動や近場への営業活動については電気自動車(リーフ)を使用することを心掛けたことも燃料削減につながり、目標達成となった。

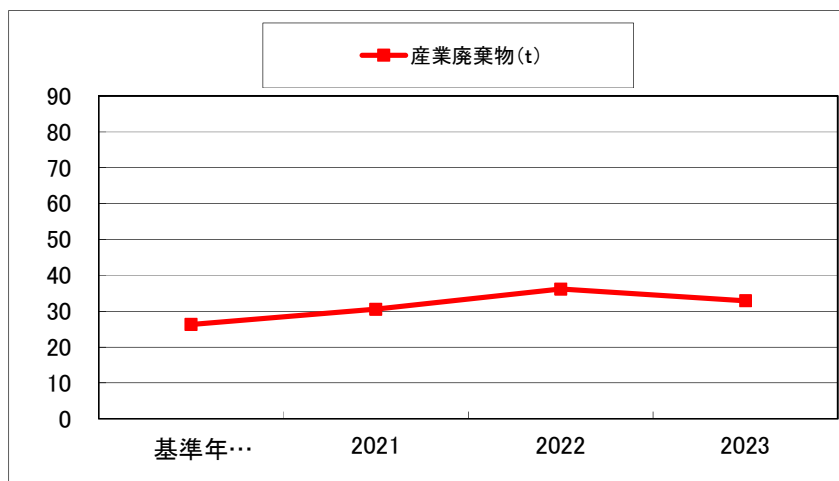
二酸化炭素排出量は削減となったが冬季原紙加温燃料は昨年に引き続き、基準年より増加しているため気温、製造する製品に応じた適切なボイラー稼働を行い、削減出来るように努める。



### 7. 2 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は目標に対して52%であった。

使用不可パレット等の木屑の発生量は少なかったが原紙歩留が悪かったことで紙屑(ガムテープ屑)の処分量が増加となり目標を達成出来なかった。



### 7. 3 水使用量の削減

水使用量は目標に対して98%であった。

コロナ感染等のウイルス予防対策による手洗い頻度が多い中、各個人の節水に対する意識も高く、使用量削減につながり目標達成となった。

今後も継続して一人ひとりが意識した節水活動に努め、更なる使用量削減に努める。

## 7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価(2)

### 7. 4 原紙使用歩留まりの向上

購入原紙幅、原紙構成、素材寸法の見直しや集約生産に努めたが目標未達となった。

### 7. 5 古紙配合紙100%使用を継続

新規に使用を始めた原紙はなかった。

### 7. 6 使用化学物質の把握と適正使用

含有する物質に関する証明書「(王子HDシステム)をメーカーより取得。

### 7. 7 グリーン購入の推進

再生テッシュペーパー、シャフリタ、事務用封筒、プリント4+スムズ<sup>®</sup>1、蛍光ワテックスアを購入した。

### 7. 8 地域貢献活動の推進

5月13名、9月9名、11月15名、3月11名の参加人員にて工場より牛津駅、江津交差点までの清掃活動を実施。



【会社周辺での清掃活動】

### 7. 9 次年度へ向けて

電力使用量については引き続き、不要な電気設備、照明器具の徹底した管理を一人ひとりが節電意識を高め使用量削減に努める。

冬季原紙加温燃料はここ数年、目標の未達成が続いているので気温、受注状況に応じた適切なボイラー稼働に努め、目標達成に向けて活動していく。

廃棄物排出量についてはロスを無くした製造に努めて、排出量削減に努める。

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、訴訟の有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

主な環境関連法	遵守状況
騒音規制法	○
振動規制法	○
廃棄物処理法	○
フロン排出抑制法	○
消防法	○

## 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

### 9. 1 環境活動の取組結果の全体評価

「環境関連法規等の取りまとめ／遵守状況の確認及び評価の結果」「2023年環境活動計画の実施状況と評価」では大きな問題は無く良好であるが、「環境目標の達成状況と評価」では、未達が多く見られ、今後は抜本的な対策が必要と考える。

今後も環境方針に沿った活動を意識して取り組まなければならない。

関係会社への指導は適切に行われており、事業所内全体の環境経営が根付いている。

### 9. 2 環境システムが有効に機能しているか

設定目標達成に向け、計画に沿って確実に取り組みを行った。

各担当者毎に設定された具体的目標を確認し、方向性を理解の上責任を持って、関係者全員の行動を指導した。

### 9. 3 見直し結果

世の中の市況や、環境に対する考え方の変化のスピードは年々早くなってきており、場合によっては目標値の変化も必要となる。アンテナを高く、その時その時での柔軟な対応が必要。

会社のステークホルダーとの、環境に関するコミュニケーションを更に綿密に行うことが重要になってくる。

今後どうコミュニケーションを取ってゆくのか、検討が必要。